

福岡県小郡市方言におけるアスペクトの体系

言語学・応用言語学専門分野

2019（平成 31）年入学

荒津 千晴

2023（令和 5）年 1 月提出

要旨

本論文では、福岡県小郡市方言におけるアスペクトの体系について、ヨル形とトル形（アスペクト接辞の-yor と-tor）の2形式に焦点を当ててその使い分けを記述する。西日本諸方言では、標準語のシテイル形が表すアスペクト的意味をヨル形とトル形で区別して表す。

本研究では工藤（2014）に記述されたアスペクト的意味のうち、直前、未遂、進行、結果、反復、痕跡、効力、反事実仮想の8つを取り上げ、動詞や場面設定、テンスを変化させた例文を作成し調査を行った。特に2形式が競合するとされる進行についてはより細かい変数を設定し調査を行った。その結果、未遂を除く7つの意味が存在していること、非過去形でも競合は起きているが過去形や未来形（推量形）ではさらに両形式が容認されやすくなることがわかった。進行の調査結果から、動作の終了限界がヨル形とトル形の使い分けに関わっていることも考えられ、アスペクト的意味の時間関係と使い分けの傾向をまとめた。

目次

1. はじめに.....	1
2. 福岡県小郡市方言.....	2
3. アスペクト記述の理論的諸概念.....	2
3.1. アスペクトとテンスの定義とその関係.....	2
3.1.1. アスペクトとは.....	3
3.1.2. テンスとは.....	4
3.2. ヨル形とトル形の表す意味.....	5
3.3. アスペクトの観点から見た動詞の分類.....	7
4. 先行研究.....	8
4.1. 福岡県の方言におけるアスペクト形式の分布状況（工藤 2014）.....	8
4.2. 佐賀県鳥栖市方言のアスペクト体系（鴨井 2020）.....	9
4.3. ヨル形とトル形の理論的枠組みの再検討（津田 2012）.....	10
4.4. 先行研究の問題点.....	12
5. 本論.....	13
5.1. 調査方法.....	13
5.2. 調査結果と考察.....	13
5.2.1. 直前.....	15
5.2.2. 未遂.....	16
5.2.3. 進行.....	17
5.2.4. 結果.....	20
5.2.5. 反復.....	21
5.2.6. 痕跡.....	22
5.2.7. 効力.....	23
5.2.8. 反事実仮想.....	24
6. おわりに.....	25
参照文献.....	28
付録 1. 調査票.....	29
付録 2. 小郡市方言例文リスト.....	38
グロス一覧.....	48

1. はじめに

本論文の目的は、福岡県小郡市方言（以下、小郡市方言）におけるアスペクト体系を記述することである。具体的には、ヨル形とトル形（アスペクト接辞の-yor と-tor）を中心に、これらの使い分けを記述する。ヨル形とトル形は、以下の例に示すように、どちらかしか容認されない場合がある。

- (1) （歩いているときに知り合いと会い、「どこへ行くの？」と聞かれて）

gakkooni {*ikiyoo*/**itto*}=yo.

gakoo=ni {*ik-i-yor-ru*/**ik-tor-ru*}=yo

学校=DAT {行く-THM-PROG-NPST/*行く-PROG-NPST}=SFP

「学校へ行く所だ。」

- (2) （「太郎はどこにいるの？」と聞かれて）

taroowa *gakkooni* {**ikiyuru*/*ittoru*}.

taroo=wa *gakoo=ni* {**ik-i-yor-ru*/*ik-tor-ru*}

太郎=NOM 学校=DAT {*行く-THM-CNS-NPST/行く-CNS-NPST}

「太郎は学校へ行っている（＝学校にいる）。」

一方で、(3)に示すように、双方が容認される場合もある。

- (3) （子供が畑の中を歩いている最中）

kodomoga *hatakeno* *naka* {*arukiyuru*/*aruitoru*}.

kodomo=ga *hatake=no* =*naka* {*aruk-i-yor-ru*/*aruk-i-tor-ru*}

子供=NOM 畑=GEN =中 {歩く-THM-PROG-NPST}

「子供が畑の中を歩いている。」

本研究は、それぞれのアスペクト的意味について、この使い分けを記述する。非過去形、過去形、未来形（推量形）による違いも調査し、ヨル形とトル形どちらも容認されることの多い動作の進行の意味については、より細かい変数を設定し調査を行う。

本論文では、はじめに 2 章で小郡市の位置や方言分派を示す。3 章では、アスペクトやテンスの定義と関連、ヨル形とトル形が持つアスペクト的意味、アスペクトの観点から見た動詞の分類など、アスペクト記述の理論的諸概念の確認を行う。4 章では西日本諸方言のアスペクトの先行研究を提示し、その問題点を述べる。5 章では筆者が行った調査の方法と結果、考察を、6 章にまとめを記述する。

2. 福岡県小郡市方言

本研究が対象とするのは、福岡県小郡市方言である。小郡市は、図1の赤色ハイライト部分、佐賀県との県境に位置する。人口は59761人（2022年12月1日現在）である。¹

国土地理院承認 平14総裁 第149号

国土地理院承認 平14総裁 第149号

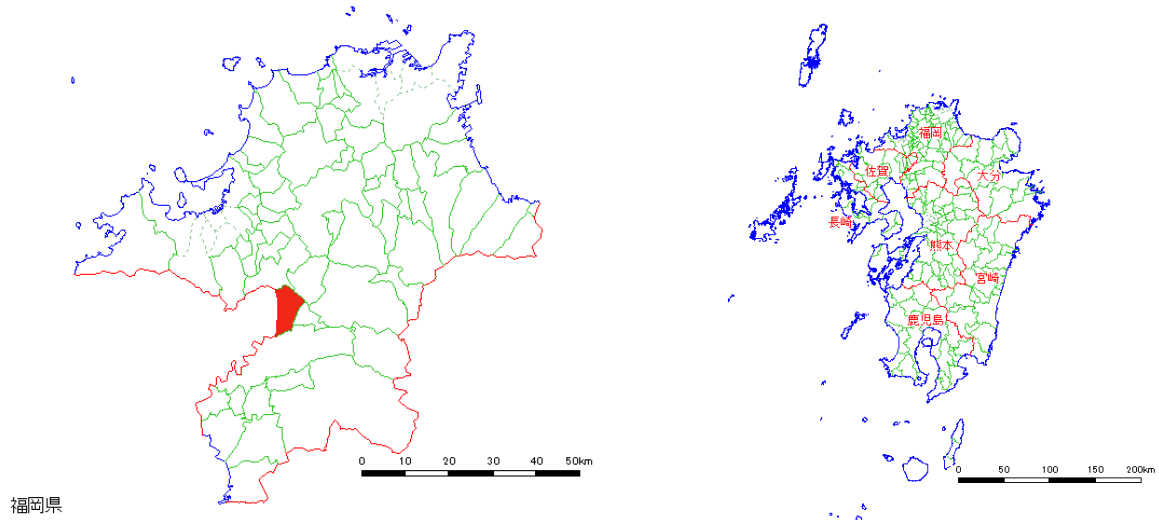


図1. 福岡県小郡市の位置（KenMap Ver9.2 を用いて筆者作成）

岡野（1983）によると、小郡市方言は肥筑方言分派の1分派である筑後方言分派に属する。筑後方言分派の第1の特徴は無型アクセントであり、連母音の同化や撥音化と促音化、狭母音化などの音変化現象が見られるとされている。

3. アスペクト記述の理論的諸概念

この章では、アスペクトとテンスの定義、ヨル形とトル形の持つ意味、動詞の分類といった筆者の研究で必要となるアスペクト記述の理論的諸概念を確認する。

3.1. アスペクトとテンスの定義とその関係

本節では、この論文が対象とするアスペクトについての基本概念の確認を行う。また、テンスの定義についても述べ、両者の関係について記述する。

¹ 小郡市「小郡市役所: ホーム」<https://www.city.ogori.fukuoka.jp/1139/3794/3795> [2023年1月アクセス].

3.1.1. アスペクトとは

工藤（2014: 195-196）はアスペクトを「動作や変化という動的事象（運動）を、〈継起的時間関係〉のなかで〈完成的〉に捉えるか、〈同時的時間関係〉のなかで〈継続的〉に捉えるかの違いを表し分ける形態論的カテゴリー」と定義している。加えて、「基本的に、継起か同時かという、他の事象（発話行為時も含まれる）との時間関係のなかでの〈運動の動的展開の捉え方の違い〉である。」（工藤 2014: 196）と説明している。標準語のアスペクト対立の例として、以下の文が挙げられている。

- (4) 改札口を出た。すると友人が来た。 〈完成＝継起〉
- (5) 改札口を出た。すると友人が来ていた。 〈結果継続＝同時〉

[工藤 2014: 195]

テンスはどちらも〈発話時以前＝過去〉であるが、(4)と(5)では時間的展開の捉え方が異なっている。(4)の「来た」は、非継続的な〈完成（限界達成）〉を表し、改札口を出た後に友人が来たという解釈となる。一方、(5)の「来ていた」は〈結果継続〉を表し、改札口を出るという事象と、友人が来るという事象の結果（友人が改札口付近にいる状態）が同時に成り立っている。非過去形においても同様の対立が成り立つ。

- (6) 先生は現在（目下）日本に来ている。 〈発話時と同時＝現在〉
- (7) 先生は明日日本に来る。 〈発話時以後＝未来〉

[工藤 2014: 196]

(6)の「来ている」は発話と、日本に来るという事象の結果との時間関係が〈同時〉であるため現在を表すことができる。一方(7)の「来る」は〈完成〉を表すため現在を表すことができず、未来を表す。このように、スル形とシテイル形とでは、〈完成〉と〈継続〉という対立がある。

また、〈継続〉には(5)(6)のような〈結果継続〉に加え、〈動作継続〉が存在する。

- (8) 改札口を出た。すると友人が手を振っていた。 〈動作継続＝同時〉

[工藤 2014: 195]

(5)(6)では「来る」動作は終了しており、その結果が継続している。一方(8)では「手を振る」動作自体が継続している。標準語では〈結果継続〉と〈動作継続〉を同じシテイル形で表現するが、西日本諸方言ではこれらをトル形とヨル形で表し分けることが述べられている。工藤（2014）では〈結果継続〉を〈結果〉、〈動作継続〉を〈進行〉と言い換えて

おり、以下、〈結果〉〈進行〉と記述する。

木部ほか（2002: 65-66）では、アスペクトとは、「出来事を、開始から終了までひとまとまりのこととして捉えるか、それとも開始・動作（変化）・完了・結果といった時間の流れに沿って段階的に捉えるか」といった、出来事の内的時間に関する文法的カテゴリーのこと」と定義している。前者の捉え方を〈完成相〉、後者の捉え方を〈継続相〉という。標準語では読む、死ぬのようなスル形が〈完成相〉、読んでいる、死んでいるのようなシテイル形が〈継続相〉を表すと述べている。

3.1.2. テンスとは

木部ほか（2002: 65）は、テンスとは、「出来事を、発話時を基準とする時間軸の上になど位置づけるか」といった、出来事の外的時間に関する文法的カテゴリーのこと」と定義している。発話時を〈現在〉、それ以前を〈過去〉、それ以後を〈未来〉と呼ぶ。読む、死ぬのようなル形が〈現在〉と〈未来〉を表す。読んだ、死んだのようなシタ形は〈過去〉を表す。

テンスとアスペクトは組み合わせて使用できる。木部ほか（2002: 66）では、以下の表のようにまとめられている。標準語では、テンスが出来事の外的時間を規定し、アスペクトが出来事の内的時間を規定する。両者を組み合わせて時間の表現を作り上げる。

表 1. テンスとアスペクトの組み合わせ

	完成相	継続相
非過去	ヨム	ヨンデイル
過去	ヨンダ	ヨンデイタ

[木部ほか 2002:66 表 1 を参照し筆者作成]

工藤（2014: 142）はテンスとは、「基本的に、〈発話行為時〉を基準とする〈事象〉の時間的位置づけである」としている。同時に、現在の事象に過去形を使用したり、過去の事象に非過去形を使用したりすることも述べている。

(9) 「軽自動車があつたでしょう。あれをしばらく貸してくれませんか」

「キーは、その戸棚の中です」

[オレンジの壺][工藤 2014: 143]

(10) 「きょう富野さんとやった時、本当に咬んだんですか」

「そりゃ、咬むさ。この2、3日、むしゃくしゃして、歯ぐきがかゆいんだ」

[北の海][工藤 2014: 147 (b)]

(9)では、確認済みの事実である現在の事象に過去形を使用し、共有情報の前面化がなされている。また、(10)では、過去の確認済みの事象に非過去形を使うことで、「当然だ」という話し手の評価感情が前面化している。確認済みの事実である場合のみ、過去の事象に非過去形を使用したり、現在の事象に過去形を使用したりすることができる。その場合、話し手と聞き手が確認済みの事実（共有情報）の前面化、話し手自身の事実確認のし方の前面化、確認済みの過去の事実に対する評価感情の前面化といった、モーダルな意味の前面化が起こると述べている。

3.2. ヨル形とトル形の表す意味

工藤（2014）によると、ヨル形とトル形は〈結果〉〈進行〉に加え、多くの派生的意味があるという。愛媛県宇和島方言における調査結果から、ヨル形は①直前、②未遂、③反復、トル形は④痕跡、⑤効力、⑥反事実仮想という意味を持つと述べている。以下、それぞれについて具体的に述べる。

①直前

〈進行〉が〈終了前の段階〉だとすると、〈直前〉は〈開始前の段階〉である。非過去形にも過去形にも存在する。

(11) [父親が栓抜きを持っているのを見たのを思い出して]

オ父サン ビール 飲ミヨッタゼ。

(12) [魚に近づいていつているのを見て]

ア 猫ガ 魚食べヨル！

[工藤 2014: 374]

〈直前〉は、〈兆候の知覚に基づく近未来の動作・変化の推定〉というテンス的側面とムード的側面（エヴィデンシャルな側面）が複合化されている。

②未遂

過去形のヨッタ形は、実現の直前までいったが実現しなかったことを表す〈未遂〉の意味を表す。〈直前〉と異なり、実現しなかったという事実を話し手が確認している。

(13) [他人のビールであるのに気づいて]

オット モーチヨットデ 人ノビール 飲ミヨッタ！

[工藤 2014: 376]

③反復

〈進行〉が一回の〈具体的な動作・変化〉を捉えているのに対して、〈反復〉は繰り返し起こる動作・変化を捉えている。このヨル形は、スル形やシタ形に言い換えることができる。

(14) オ父サンワ コノ頃 ヨー ビール 飲ミヨルゼ。

[工藤 2014: 376]

〈反復〉と似たものとして、〈多回〉がある。〈多回〉は〈特定の時空間における運動の繰り返し（リアル）〉である。〈反復〉とは異なり、スル形やシタ形に言い換えると意味が変わる、または言い換えられない。

④痕跡

〈結果〉と異なり、トルが必然的結果をもたらさない主体動作動詞とむすびつくと、偶然的な間接的結果を表す。話し手は〈間接的証拠〉を知覚して〈先行時の動作の推定〉を行う。

(15) [足跡や靴の汚れを見て]

子供ガ 畑ノナカ 歩イトル。

[工藤 2014: 380]

⑤効力

記憶から引き出された〈先行時の動作・変化の完成〉と、後続時におけるその〈効力〉の現存を〈主体的〉に関係づける。痕跡の場合は間接的証拠に基づく話し手の推定であるのに対し、〈効力〉の場合は〈確認済みの事実の記憶からの引き出し〉である。

(16) 私 昨日モ ビール 飲ンドルンヨ。ソンド 今日ワ 飲メナイ。

[工藤 2014: 382]

⑥反事実仮想

条件づけを伴う場合、〈未遂〉と異なりトッタ形が用いられる。標準語と同じく「今頃」と共起できる。この場合のトッタ形は〈終了後の段階〉を表すアスペクト的意味はなくなる。〈反事実仮想〉は一回的な事象に限定される。

(17) アンタガ 止メンカッタラ オ父サン 今頃 オ酒 飲ンドッタゼ。

3.3. アスペクトの観点から見た動詞の分類

本節では、工藤（2014）で記述されている動詞分類を示す。特に、アスペクトの観点から見た運動動詞の下位分類について記述する。

工藤（2014）は動詞を〈時間的限定性〉の観点から、運動動詞（歩く、食べるなど）、状態動詞（怒る、聞こえるなど）、存在動詞（ある、いる、欠けているなど）、特性動詞（優れている、尖っているなど）、関係動詞（あてはまる、共通するなど）に分類している。さらに、〈動的な時間展開性〉のある運動動詞を「最も動詞らしい動詞」と述べ、アスペクトの観点から見た下位分類を行っている。「終了、開始の〈時間限界〉のあり様」「客体における変化の有無」「主体の意志性の有無」から、①主体動作客体変化動詞、②主体変化動詞、③主体動作動詞の3つに分類している。以下、それぞれの特徴を述べる。

①主体動作客体変化動詞

意志を持つ主体が客体に働きかけて客体の状態や位置を変化させる動作を表す動詞である。〈開始の時間限界〉があり、客体の変化が達成されると動作が終了するため〈終了の時間限界〉もある。（例：あける、かたづける、しめる、うえる、あつめる、あずける、うる、もらう）

②主体変化動詞

主体の状態や位置の変化だけを捉えた動詞である。変化が達成されると動作が終了する。〈開始の時間限界〉よりも〈必然的終了限界〉が焦点化される。（例：かぶる、かつぐ、すわる、ねる、でかける、かれる、しぬ、わく、われる）

③主体動作動詞

主体変化動詞とは反対に動作だけを捉えた動詞である。客体に働きかける動作だけを表す他動詞も、自動詞も存在する。必然的終了限界はなく〈開始の時間限界〉が焦点化される。（例：うごかす、たべる、のむ、あるく、およぐ、とぶ、わらう）

本論文ではこの動詞分類を採用し、小郡市方言においても動詞の種類によって違いが見られるか観察する。

4. 先行研究

この章では、西日本諸方言におけるアスペクトの先行研究を示す。4.1 では工藤（2014）の福岡県久留米方言と福岡県福岡方言の調査結果について、4.2 では小郡市の隣に位置する佐賀県鳥栖市方言の研究について、4.3 ではヨル形とトル形の競合に注目した研究について述べる。4.4 ではこれらの研究の問題点を示す。以下の図2は、4.1 で述べる福岡県久留米市を水色、福岡県福岡市を黄緑色、4.2 で述べる佐賀県鳥栖市を黄色、福岡県小郡市を赤色でハイライトして示している。

国土地理院承認 平14総機 第149号

国土地理院承認 平14総機 第149号

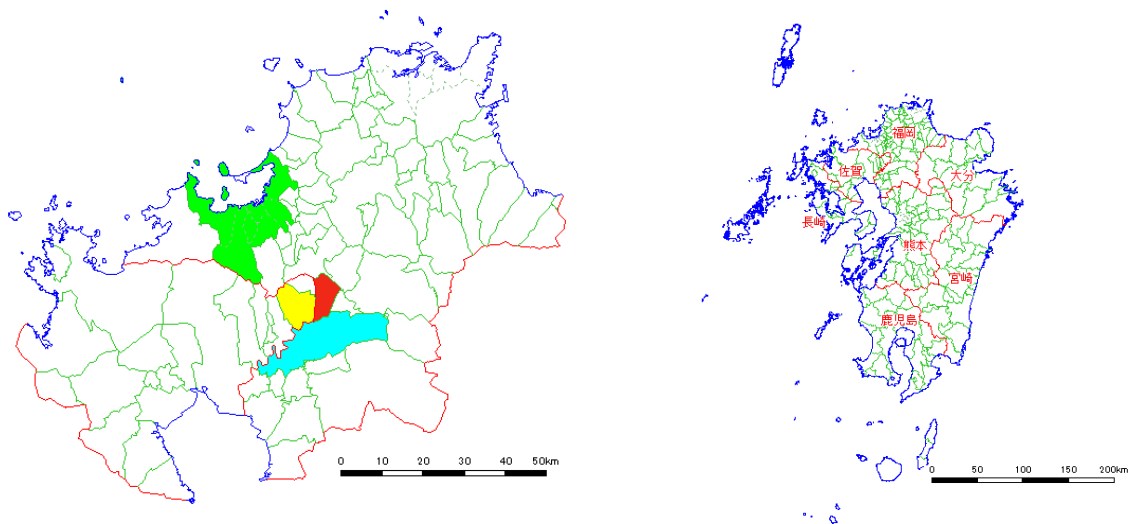


図2. 福岡県久留米市、福岡県福岡市、佐賀県鳥栖市、福岡県小郡市の位置（KenMap Ver9.2 を用いて筆者作成）

4.1. 福岡県の方言におけるアスペクト形式の分布状況（工藤 2014）

工藤（2014）では、1996年度から2002年度に3期にわたって行った共同研究の結果を記述している。調査地点に小郡市も含まれている。工藤は、主体動作客体変化動詞、主体変化動詞、主体動作動詞の運動動詞の下位分類ごとに、ヨル形とトル形がどのアスペクト的意味を表すかをまとめている。小郡市の隣に位置する福岡県久留米市も調査地点に含まれており、久留米方言については、以下の結果が報告されている。

表2. 久留米方言 動詞の種類別ヨル形とトル形の表す意味

	ヨル形	トル形
主体動作客体変化動詞	進行	結果

主体変化動詞	進行	結果
主体動作動詞	進行	進行

[工藤 2014: 501-502 を参考に筆者作成]

福岡県福岡方言は以下のようにまとめられている。

表 3. 福岡方言 動詞の種類別ヨル形とトル形の表す意味

	ヨル形	トル形
主体動作客体変化動詞	進行	結果、進行
主体変化動詞	進行	結果
主体動作動詞	進行	進行

[工藤 2014: 498 の表を参考に筆者作成]

工藤（2014）は、西日本諸方言で進行の意味をトル形でも表すようになっている結果を示し、ヨル形とトル形の対立からトル形への 1 本化が進む傾向が見られると述べている。そしてそれは動詞のタイプと関係し法則的に進んでいると考察している。必然的終了限界のない主体動作動詞から始まり、次に主体動作という点が共通する主体動作客体変化動詞、そして最後に主体変化動詞の一部に競合が進んでいるとし、このような動態の考察のためにも運動動詞の下位分類は重要であると述べている。

4.2. 佐賀県鳥栖市方言のアスペクト体系（鴨井 2020）

鴨井（2020）では、将前相、進行相、結果相の 3 つのアスペクトに対応する命題を提示し、使用する形式を [-YORU、-TORU、-TERU、その他] の中から複数選択させ回答を得る調査を行い、西日本諸方言をタイプ別に記述している。動詞は工藤（2014）では主体動作動詞に分類される「走る」で統一されている。将前相は工藤（2014）で言う直前、結果相は痕跡にあたる。命題の例は以下の通りである。

[将然] 運動場へ行くと、スタートラインに立ち、手首足首を回す走る直前の A がいた
 [選択肢] a.A が、走りヨル/b.A が、走っトル/c.A が、走っテル/d.その他：

[進行] 運動場へ行くと、走っている最中の A がいた
 [選択肢] a.A が、走りヨル/b.A が、走っトル/c.A が、走っテル/d.その他：

[結果] 運動場へ行くと、既に 10 周走り終えた A が休憩していた

[選択肢] a.A が、走りヨル／b.A が、走っトル／c.A が、走っテル／d.その他：

[鴨井 2020: 228]

鴨井（2020）は、本研究で対象とする小郡市の隣に位置する佐賀県鳥栖市方言の調査を行っている。結果は以下の図にまとめられている。

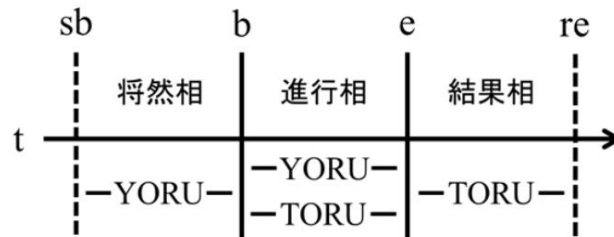


図 3. 佐賀県鳥栖市のアスペクト体系

[鴨井 2020: 231 図 6 アスペクト体系 B タイプ]

佐賀県鳥栖市方言ではヨル形とトル形の 2 形式が使用される。命題における将然相（直前）にヨル形のみ、進行相にヨル形とトル形、結果相（痕跡）にトル形が使われる。このように、進行相における 2 形式の競合が存在することが報告されている。

4.3. ヨル形とトル形の理論的枠組みの再検討（津田 2012）

津田（2012）は、山口県方言の談話資料を用いて、場面的に進行と言われる局面におけるヨル形とトル形の使用の実態を観察し、2 つの形式のアスペクトの理論的枠組みの再検討を行っている。

(18) (井戸掘りの様子を見るように頼まれて行くと)

A ヘター サカンニー X2 チャンガ ホリヨッタナ。

そうしたら さかに X2 ちゃんが 掘っていたね。

[国立国語研究所編 2003: 154 (43A)]

井戸掘りを得意とする話者が、様子を見に来るように頼まれて行くと、孫である X2 ちゃんが、井戸掘りをしていた、という場面である。（津田 2012: 40）

(19) (井戸掘り作業は、横壁が崩れるかもしれないので恐ろしくてできないと言う素人の B に)

A ウン。クヤー センイヤ。

うん。崩れは しないよね。

B マー フント。 タマゲタ マー。 ホントー。 ソコエ オリルノガ
 まあ ほんと。 驚いた まあ。 ほんとうに。 底へ 下りるのが
 ワタシャー ミチョルソガ オソロシー。
 私は 見ているのが 恐ろしい。

[国立国語研究所編 2003: 157 (58B)]

井戸掘りの作業は横壁が崩れるかもしれないなど、素人には不安が多く、その作業を「見る」ことを続けるのが恐ろしいという発話である。(津田 2012: 41)

(18)も(19)も、動作が終了していないという点では場面的に進行であるが、ヨル形とトル形の選択が異なる。(18)では、「井戸掘りの様子をみるように頼まれていく」という行動を起こした時に、「X2 ちゃんが井戸掘りをする」動作が続いていることを目撃しているのが明確である一方、(19)では、「井戸掘りの作業で人が下に下りるのを見る」事態が続くことを状態として捉えているという。また、同じ「する」の動詞が使われており、形式の選択が異なった例文は以下の通りである。

(20) (子どもの頃、学校から帰ると農作業を手伝わなければならない、田も学校に近かった
 ので、道草を食うとすぐにばれて晩に叱られていたという C に)

B ガッコーワ ナンジニ シマエタソエ オマエ ナニ シチョルカ
 「学校は 何時に 終わったのに お前 [は] 何 [を] しているんだ」
 チュー コトジャッターロー。
 という 具合だったね。

C アー。 モー ダエエブン モー イチジカンモ マエエ シモータソエ
 ああ。 「もう だいぶん もう 1時間も 前に 終わったのに
 ナニョ ショルカ チューヨーナ コトデー。
 何を しているんだ」というような ことで。

[国立国語研究所編 2003: 230 (411B)(412C)]

B の発言は「子どもが道草を食った」ことを終了した事態として結果と捉えることができそうであるが、この場合の「する」は「住む、勤める」などと同じく、工藤(1995)の動詞分類の「人の長期的動作動詞」にあたると考えられるとし、この動作は叱られている段階で改善に至っていない、つまり終わっていないものであるため場面的には進行としている。また、工藤(1995)ではこういった動詞はヨル形とトル形のアスペクト対立が中和され状態の継続を表すとされていることから、この場面はどちらも進行であるとする。この形式の選択の違いを、C はそのような生活をまさに続けていることについて叱られており、B はそのような生活にあること、その状態を叱られていると津田は考察している。

このような例から、津田（2012）はヨル形を「基準時に事態がアクチュアルに起こっていることを示す形式」、トル形を「動詞の表す事態が基準時まで継続していることを示す形式」と述べている。進行と結果という既存の枠組みでは2つの形式のちがいを表せておらず、どのように事態を捉えているかという区別の仕方を提唱している。

4.4. 先行研究の問題点

ここまで示した先行研究から、小郡市近隣の方言を含む西日本諸方言では、アスペクト表現としてヨル形とトル形の2形式が用いられ、使い分けられていることが分かっている。それに加え、片方の形式のみが容認される場合と、双方が容認される場合があることが報告されている。特に進行では、双方の形式が用いられることが多いことが分かっている。

小郡市方言を中心に扱った先行研究はなく、西日本諸方言の調査結果として考察に取り上げられることもない。1996年度から2002年度に工藤が行った共同研究では調査地点の1つになっているが、工藤（2014）では特に取り上げられていない。ヨル形とトル形と同時に、「シテ+オク」から成立したトク形と類推によって成立したヨク形の対立について述べた工藤（1999）では、トル形ヨル形と平行してトク形ヨク形のある方言としてあげられてはいるが、やはり具体的には述べられていない。

3.2で述べた工藤（2014）の宇和島方言における調査結果では、同じアスペクト的意味の中で、テンスとの関連が明らかに述べられていない。久留米方言や福岡方言については進行と結果についての記述にとどまっており、その他のアスペクト的意味については述べられていない。テンスについても非過去形の例文のみとなっている。鴨井（2020）でも、扱われたアスペクト的意味は3つのみである。テンスは非過去形のみでの調査となっており、過去形や未来形（推量形）ではどうなるかは結果として記述されていない。そこでこの論文では、工藤（2014）で述べられている直前、未遂、進行、結果、反復、痕跡、効力、反事実仮定の8つすべてのアスペクト的意味について、非過去形、過去形、可能なものは未来形（推量形）の例文を作成し調査を行うことで、より体系的に記述する。

津田（2012）では談話資料を用いた考察を行っているため、もう一方の形式は使用できないのかという否定証拠がとられていない。(19)については、「見ているのが」というように埋め込み文で述語になっておらず、他のものとは異なる形になっているという違いもある。このことから、ヨル形とトル形がすべて述語になる調査文に統一し、全て否定証拠をとることとする。

5. 本論

5.1. 調査方法

調査は、多くは木部ほか（2002）の調査文を参照し行った。また、木部ほか（2002）で扱われていないアスペクト的意味については、工藤（2014）の例文を参考に調査文を作成した。調査したアスペクト的意味は、直前、未遂、進行、結果、反復、痕跡、効力、反事実仮想の8つである²。テンスによって容認度に違いが出るかを考察するため、それぞれについて、非過去形、過去形、可能なものは未来形（推量形）の調査文を作成した。

先行研究でヨル形とトル形の競合が起こるとされている進行については、より細かい変数を設け、主体動作動詞で調査文を作成した。変数は①動作の終了限界、②主語、③目撃の有無である。①については、工藤（2014）で〈多回〉とされている同じ動作を繰り返す場合を含む、終了限界がない場合、動作の所要時間が長いつまり終了限界が遠い場合と、所要時間が短い終了限界が近い場合の3つを設定した。工藤（2014）では主体動作動詞は必然的時間限界を持たないとされているが、場面設定によって終了限界を作った。この変数は、動詞の終了限界とヨル形とトル形の競合が関係しているという工藤（2014）の主張を確認するために設定した。②については、1人称主語と3人称主語の2つを設定した。③については、話者が直接確認した内容である場合と人から聞いた内容である場合を3人称主語の調査文で設定した。②③については、2形式の使い分けが体験性や証拠性と関係するかを考察するために設定した。

調査は、想定している場面を説明し、「そのときこの文を何と言いますか」と尋ね、回答を得た。調査は全て調査票を用いたオンラインでの面接調査を行った。小郡市出身・在住の22歳女性の話者の協力を得た。

5.2. 調査結果と考察

小郡市方言においてもヨル形とトル形2つのアスペクト形式が用いられることが分かった。先行研究で述べられていた結果と同様に、進行ではヨル形とトル形の競合が多くの例文から見て取れた。また、過去形や未来形（推量形）にすることで容認度に変化があることも分かった。調査結果から、ヨル形とトル形の分布は以下のようにまとめられる。直前のトル形は「開けようとしてとった」のような形式のみで用いられたため△としている。

表4. 小郡市方言 ヨル形とトル形の分布

² 木部ほか（2002）は、変化達成直前、変化過程継続、主体結果、反復習慣、完成相の調査文を記載している。ここでは、工藤（2014）の名称に統一し、変化達成直前を直前、変化過程継続を進行、主体結果を結果、反復習慣を反復と記述する。完成相についてはヨル形とトル形が現れないことが明らかであったため、本研究では扱わない。

	ヨル形	トル形
直前	○	△ (過去形のみ)
未遂	×	×
進行	○	○
結果	×	○
反復	○	○
痕跡	○ (過去形のみ)	○
効力	○ (過去形のみ)	○
反事実仮想	×	○ (過去形のみ)

動詞の種類ごとにヨル形とトル形が表すアスペクト的意味をまとめたのが以下の表5である。網掛け部分は調査していないものである。

表5. 小郡市方言 動詞の種類別ヨル形とトル形の表す意味

動詞の種類	ヨル形	トル形
主体動作客体変化動詞	直前、進行、反復	進行、結果、反復、痕跡、効力 (過去形のみ)、反事実仮想 (過去形のみ)
主体変化動詞	直前、進行、反復、効力 (過去形のみ)	進行 (過去形のみ)、結果、反復、痕跡、効力 (過去形のみ)、反事実仮想 (過去形のみ)
主体動作動詞	進行、反復、痕跡、効力	進行、反復、痕跡、効力、反事実仮想 (過去形のみ)
状態動詞	直前、未遂、進行、反復、痕跡、効力、反事実仮想	直前、未遂、進行、結果、反復、痕跡、効力、反事実仮想

4.1の久留米方言、福岡方言と比較すると、小郡市方言は同じ方言分派の久留米方言ではなく、福岡方言と同様であることがわかる。過去形を含めると、福岡方言よりもさらにトル形の使える範囲が広がっている。

以下、それぞれのアスペクト的意味ごとに調査結果を表に示し、考察を述べる。Yはヨル形、Tはトル形が用いられたことを示している。等号は容認度が同程度であること、不等号は容認度の違いを表している。「Y>T」のように不等号が1つの場合は、「どちらも使用できるがヨル形の方がトル形よりも容認度が高い」、「Y>>T」のように不等号が2つ

の場合は、「ヨル形の方が容認度が高く、トル形を使われても意味は伝わるが自分では言わない」のような回答を得たものである。空欄はヨル形とトル形を使用しないと回答を得たもの、斜線部は調査を行っていないものであり、単純なヨル形とトル形で表せず「開けようとしよる」などの形式を用いる回答は括弧で括っている。

5.2.1. 直前

表 6. 直前の調査結果

動詞の種類	動詞	非過去	過去	未来（推量）
主体動作客体変化動詞	開ける	Y	(Y>T)	(Y=T)
主体変化動詞	行く	Y	Y	
	死ぬ		(Y<<T)	(Y<<T)
主体動作動詞	歩く	(Y>T)	(Y>T)	
	降る		(Y>>T)	/

直前 (inceptive、以下のグロスでは ICP) の意味においては、単純なヨル形を使用できたのは主体動作客体変化動詞「開ける」と主体変化動詞「行く」のみであった。

- (21) (太郎が窓に手をかけたところ)

*tarooga mado {akeyoru/*aketoru}.*
*taroo=ga mado {ake-yor-ru/*ake-tor-ru}*
 太郎=NOM 窓 {開ける-ICP-NPST}
 「太郎が窓を開けている。」

- (22) (太郎がカバンを持って玄関を出ようとしている)

*tarooga gakkooni {ikiyoru/*ittoru}.*
*taroo=ga gakoo=ni {ik-i-yor-ru/*ik-tor-ru}*
 太郎=NOM 学校=DAT {行く-THM-ICP-NPST/*行く-ICP-NPST}
 「太郎が学校に行っている。」

他の動詞や過去形、未来形（推量形）では、「しようとしよる／しようとしとる」や「しかけている」といった形式が用いられた。

- (23) (子供が畑に入ろうとしているのを見て)

kodomoga hatakeno naka arukooto {siyoru/sitoru}.

kodomo=ga hatake=no naka aruk-roo=to {s-i-yor-ru/s-i-tor-ru}
 子供=NOM 畑=GEN 中 歩く-INT=QUOT {する-THM-ICP-NPST}

「子供が畑の中を歩こうとしている。」

(24) (雨粒が2、3滴落ちてきていたのを思い出して)

amega hurooto {siyotta/sittota}.
 ame=ga hur-roo=to {s-i-yor-ta/s-i-tor-ta}
 雨=NOM 降る-INT=QUOT {する-THM-ICP-PST}

「雨が降ろうとしていた。」

(25) (金魚の様子を見て)

asitani nattara kingyowa sinikake{yoru/toru}yaroone.
 asita=ni nar-ta-ra kingyo=wa sin-i-kake{-yoru/-toru}=yar-a-u=ne
 明日=DAT なる-CND 金魚=TOP 死ぬ-THM-かける{-ICP-NPST}=COP-THM-
 INFR=SFP

「明日になったら金魚は死にかけているだろうね。」

このような形式の違いは、動作が始まるまでの兆候の長さとそれを話し手が知覚しているかによると考えられる。「窓を開ける」「学校へ行く」という動作(変化)の開始までには、窓を開ける前に動作主体が窓に近づき手をかける段階や、カバンを持って玄関で靴を履いてドアに手をかける段階を話し手が目撃し、その後の動作を推定する時間がある。それに対して「歩く」「降る」「死ぬ」の例文では動作前の段階を知覚してから動作が起こるまでが短い。

単純なヨル形とトル形を使用する場合はヨル形のみが使用され、その他の形式でも、「死ぬ」の未来形(推量形)以外は、ヨル形の容認度が高かった。これは直前というアスペクト的意味が動作の開始限界前にあたることが関係していると思われる。トル形は基本的に動作や変化の完了を表すとされていることから、動作の開始限界前を表すことは少ないと考えられる。

5.2.2. 未遂

表 7. 未遂の調査結果

動詞の種類	動詞	過去
主体動作客体変化動詞	開ける	

主体変化動詞	行く	
	死ぬ	
主体動作動詞	歩く	
	降る	

未遂については、小郡市方言ではヨル形とトル形で表せないことがわかった。回答は以下のように「とこ(ろ)やった」となった。

(26) (窓を開けようとしていた太郎に、雨が降っているのを伝えて止めた)

moosukoside taroowa madoo akeru tokoyatta.

moosukoside taroo=wa mado=o ake-ru -toko=yar-ta

もう少しで 太郎=NOM 窓=ACC 開ける-NPST -ところ=COP-PST

「もう少しで太郎は窓を開けるところだった。」

5.2.3. 進行

表 8. 進行の調査結果

動詞の種類	動詞	非過去	過去	未来(推量)
主体動作客体変化動詞	開ける	Y>>T	Y>>T	Y>>T
主体変化動詞	行く	Y	Y>>T	Y
	死ぬ	Y		
主体動作動詞	歩く	Y>T	Y=T	Y>T
	降る	Y>>T	Y=T	Y>T
状態動詞	怒る	Y=T	Y<T	Y=T

表 9. 進行 主体動作動詞「動かす」の調査結果

動作の終了限界	人称	目撃の有無	非過去	過去
ない	1人称	有	Y	Y>T
			Y	Y>T
	3人称	無	Y	Y>>T
近い	1人称	有	Y / (T)	Y>T
			Y	Y>>T
	3人称	無	Y=T	Y
遠い	1人称	有	Y	Y>T

	3 人称		Y	Y>T
		無	Y	Y>T

表 10. 進行 主体動作動詞「飲む」の調査結果

動作の終了限界	人称	目撃の有無	非過去	過去
ない	1 人称	有	Y=T	Y>T
	3 人称主語		Y=T	Y>T
		無	Y>T	Y>T
近い	1 人称	有	(Y) / T	Y>T
	3 人称主語		Y	Y>T
		無	Y=T	Y>T
遠い	1 人称	有	Y	Y>T
	3 人称主語		Y	Y>T
		無	Y>T	Y>T

表 11. 進行 主体動作動詞「見る」の調査結果

動作の終了限界	人称	目撃の有無	非過去	過去
ない	1 人称	有	Y>T	Y>T
	3 人称主語		Y>>T	Y=T
		無	Y>T	Y>>T
近い	1 人称	有	Y=T	Y=T
	3 人称主語		Y	Y>T
		無	Y / (T)	Y
遠い	1 人称	有	Y	Y>>T
	3 人称主語		Y	Y>>T
		無	Y>>T	Y>>T

進行 (progressive、以下のグロスでは PROG) については、全ての調査文でヨル形が使用された。また、かなり多くの例文でトル形も容認された。特に過去形では、非過去形での容認度以上であるものが多かった。状態動詞では進行におけるヨル形とトル形のアスペクト対立が中和され状態の継続を表すとされるが、調査ではヨル形とトル形を同じ程度使用できるという回答を得られたため、小郡市方言においてもそれは成り立っている。表 8 から非過去形で動詞の種類ごとに比較すると、終了限界がないとされる主体動作動詞で特に競合が起こっている。

「動かす」「飲む」「見る」での①動作の終了限界、②人称、③目撃の有無の変数による違いについて述べる。①については、非過去形では動作の終了限界がない場合に特に 2 形式の競合が起こっている。加えて、動作の終了限界が遠い場合が最もトル形の容認度が低く、ヨル形が主に使われる傾向がある。

(27) (電話で「今何してる?」と聞かれて)

*ima biiru {nomiyoru/*nondoru}.*
*ima biiru=φ {nom-i-yor-ru/*nom-tor-ru}*
 今 ビール=ACC {飲む-THM-PROG-NPST/飲む-PROG-NPST}
 「今ビールを飲んでいる。」

②については、「動かす」「飲む」では明確な関連が見られない。「見る」では 3 人称主語に比べ 1 人称主語のとき、トル形の容認度が少し高くなっている。(28)の例文ではヨル形とトル形が同程度で使用できるのに対し、(29)ではヨル形しか使用できない。

(28) (電話で「今何してる?」と聞かれて)

ima ○○ga jiettokoosutaani nottoru=no=o
ima ○○=ga jiettokoosutaa=ni nor-tor-ru=no=o
 今 ○○ (人名) =NOM ジェットコースター=DAT 乗る-PROG-NPST=CMPL=ACC

{miyoru/mitoru}.
{mi-yor-ru/mi-tor-ru}
{見る-PROG-NPST}
 「今○○ (人名) がジェットコースターに乗っているのを見ている。」

(29) (電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて)

otoosanwa ima ○○ga jiettokoosutaani
otoosan=wa ima ○○=ga jiettokoosutaa=ni
 お父さん=NOM 今 ○○ (人名) =NOM ジェットコースター=DAT

*nottorunoo {miyoru/*mitoru}.*
*nor-tor-ru=no=o {mi-yor-ru/*mi-tor-ru}*
 乗る-PROG-NPST-CMPL-ACC {見る-PROG-NPST}
 「お父さんは今○○ (人名) がジェットコースターに乗っているのを見ている。」

この例文の「ジェットコースターに乗っている」とは、その人がまさに今乗り物に乗っており、声をあげながら落ちている状態である。そのように指定した調査では上記のような結果となった。ここで、「ジェットコースターに乗っている」というのがまだ列に並んでいる状態だとするとどうなるか。話者に尋ねたところ、その場合はヨル形のみ使用できるという回答を得た。まさに今落ちている場合と、今は並んでいて乗り終わるまで待つ場合は、変数①の終了限界の違いと同様である。終了限界の遠い後方でトル形が使用されなくなることは、進行の調査全体の結果と一致している。

最後に③については、3人称主語現在で比較すると「飲む」の終了限界なしを除いて、伝聞の場合にトル形の容認度が高くなる傾向がある。このように非過去形では①②③の変数による違いが確認できたが、過去形ではトル形の容認度が全体的に高まるため比較することができなかった。

主体動作動詞「飲む」の終了限界に近い1人称主語の例文では、第1回答はトル形であるが、飲みはじめであればヨル形も使用できるという回答を得た。

(30) (電話で「今何してる?」と聞かれて)

ima taityou waruiken eeyoodorinku {nomiyoru/nondoru}.
ima taityou waru-i=ken eeyoodorinku {nom-i-yor-ru/nom-tor-ru}
 今 体調 悪い-NPST=CSL栄養ドリンク {飲む-THM-PROG-NPST/飲む-PROG-NPST}

「今体調が悪いので、栄養ドリンクを飲んでいる。」

このことから、動作の進行中という同じ場面であっても、発話時の段階が終了限界とどのような距離感であるかが関係しているのではないかと考えられる。

5.2.4. 結果

表 12. 結果の調査結果

動詞の種類	動詞	非過去	過去	未来
主体動作客体変化動詞	開ける	T	T	T
主体変化動詞	行く	T	T	T
	死ぬ	T	T	T
状態動詞	怒る	T	T	T

結果 (consecutive、以下のグロスでは CNS) については、主体動作動詞の文が作成できない。調査した全ての動詞、全てのテンスでトル形しか用いられないことが分かった。

(31) (「太郎はどこにいるの?」と聞かれて)

*taroowa gakkooni {*ikiyoru/ittoru}.*

taroo=wa gakoo=ni {*ik-i-yor-ru/ik-tor-ru}

太郎=NOM 学校=DAT {*行く-THM-CNS-NPST/行く-CNS-NPST}

「太郎は学校へ行っている (=学校にいる)。」

5.2.5. 反復

表 13. 反復の調査結果

動詞の種類	動詞	非過去	過去	未来
主体動作客体変化動詞	開ける	Y>>T	Y>>T	
主体変化動詞	行く	Y>T	Y>T	
	死ぬ	Y	Y	
主体動作動詞	歩く	Y>T	Y=T	
	降る	Y>T	Y>T	
状態動詞	怒る	Y<T	Y=T	

反復 (habitual、以下のグロスでは HBT) では、全ての動詞でヨル形が優勢ではあるが、主体動作動詞「死ぬ」以外はトル形も容認された。

(32) (この頃は交通事故で)

*mainiti hyakuninzutu hitoga {siniyoru/*sindoru}.*

mainiti hyakunin=zutu hito=ga {sin-i-yor-ru/*sin-tor-ru}

毎日 100 人=ずつ 人=NOM {死ぬ-THM-HBT-NPST/*死ぬ-HBT-NPST}

「毎日 100 人ずつ人が死んでいる。」

(33) *taroowa mainiti gokiro {arukiyoru/aruitoru}.*

taroo=wa mainiti gokiro {aruk-i-yor-ru/aruk-tor-ru}

太郎=NOM 毎日 5km {歩く-THM-HBT-NPST/歩く-HBT-NPST}

「太郎は毎日 5km 歩いている。」

この例文の調査時に、「今日までに 100 人死んでいるということなら死んだら人数が更新されるなら死によると言う」という話者の発言があり、完了との区別が明確にされ

ていることが分かった。しかし、他の動詞は「太郎は」など動作主体が具体的であるのに対し、「死ぬ」は動作主体の有生性が低いという違いがあるため、「死ぬ」でトル形の回答が出なかったのは主語の問題もあると考えられる。動作主体を具体的にして調査を行い、結果を再度確かめる必要がある。

5.2.6. 痕跡

表 14. 痕跡の調査結果

動詞の種類	動詞	非過去	過去
主体動作客体変化動詞	開ける	T	T
主体変化動詞	行く	T	T
	死ぬ	T	T
主体動作動詞	歩く	T	Y=T
	降る	Y=T	Y=T

痕跡 (inference、以下のグロスでは INFR) では、主にトル形が使用される。非過去形でヨル形が用いられるのは主体動作動詞「降る」のみである。

(34) (地面が濡れているのを見て)

amega {huriyoru/huttooru}.
ame=ga {hur-i-yor-ru/hur-tor-ru}
 雨=NOM {降る-THM-INFR-NPST}
 「雨が降っている。」

(35) (ズボンに泥が付いているのを見て)

*konokowa mata hatakeno naka {*arukiyoru/aruitoru}.*
*konoko=wa mata hatake=no =naka {*aruk-i-yor-ru/aruk-i-tor-ru}*
 この子=NOM また 畑=GEN =中 {歩く-THM-INFR-NPST}
 「この子はまた畑の中を歩いている。」

痕跡では、非過去形であっても、その動作はすでに起こって終わった後の段階を捉えている。(35)の例文では、話し手である親は目の前の子どもが履いているズボン、あるいは子どもが脱いだズボンを見ている状況設定であることから、子どもが畑の中を歩いたのは過去の話であると伝わりやすい。しかし(34)では、肉眼では雨粒は見えないが地面が濡れているから今現在雨が降っていることが分かるという解釈をすることができ、痕跡の文とし

て調査できていない可能性がある。

また、(35)が過去形になると、ヨル形もトル形と同程度容認される。

(36) (ズボンに泥がついていたのを思い出して)

konokowa mata hatakeno naka {arukiyotta/aruitotta}=n=yana.

konoko=wa mata hatake=no =naka {aruk-i-yor-ta/aruk-tor-ta}=n=yana

この子=NOM また 畑=GEN =中 {歩く-THM-INFR-PST/歩く-INFR-

PST}=NLZ=SFP

「この子はまた畑の中を歩いていたんだな。」

先述のように、痕跡の特徴はすでに終わった動作を非過去形で表すことである。「ズボンに泥が付いているのを今直接見ている」と「ズボンに泥が付いているのを直接見たことを思い出す」ことはどちらも動作の間接的な証拠である。そこは同じであるが、すでに起こったことを過去形で表しているため、(36)は進行の意味に近くなっておりヨル形が容認されるのではないかと考える。過去形を痕跡として扱えるのか再検討が必要である。

5.2.7. 効力

表 15. 効力の調査結果

動詞の種類	動詞	非過去	過去
主体動作客体変化動詞	開ける	(Y=T)	T
主体変化動詞	行く		Y=T
	死ぬ		T
主体動作動詞	歩く		Y<T (Y=T)
	降る	T	Y=T

効力 (perfect、以下のグロスでは PRF) では、「太郎は昨日 10km 歩いている。だからとても筋肉痛らしい。」「太郎は昨日 10km 歩いていた。だからとても筋肉痛らしい。」というような事態は全く同じでテンスのみが違う調査文を作成した。主体動作動詞「降る」はどちらも回答を得たが、他の動詞では過去形のみで回答を得た。効力はトル形が優勢である。

(37) *kesa ame {*huriyoru/huttur}ken*

zimenga nuretoru.

kesa ame=φ {*hur-i-yor-ru/hur-tor-ru}=ken

zimen=ga nure-tor-ru

今朝 雨=NOM {*降る-THM-PRF-NPST/降る-PRF-NPST}=CSL 地面=NOM 濡れる-

CNS-NPST

「今朝雨が降っているから、地面が濡れている。」

- (38) *kesa ame {huriyotta/huttotta}ken zimenga nuretoru.*
kesa ame=φ {hur-i-yor-ta/hur-tor-ta}=ken zimen=ga nure-tor-ru
 今朝 雨=NOM {降る-THM-PRF-PST/降る-PRF-NPST}=CSL 地面=NOM 濡れる-
 CNS-NPST

「今朝雨が降っていたから、地面が濡れている。」

また、主体動作客体変化動詞「開ける」では「太郎は寝るとき部屋の窓を開けている。だから風邪をひいている。」「太郎は寝るとき部屋の窓を開けていた。だから風邪をひいている。」という調査文で調査を行ったが、非過去形の場合、「太郎は寝るとき毎日部屋の窓を開けている。だから風邪をひいている。」という文であればヨル形とトル形どちらも使用できるという回答を得た。

- (39) *taroowa nerutoki mainiti heyano madoo {akeyoru/aketoru}=ken*
taroo=wa neru=toki mainiti heya=no mado=o {ake-yor-ru/ake-tor-ru}ken
 太郎=NOM 寝る=とき 毎日 部屋=GEN 窓=ACC {開ける-HBT-NPST}=CSL

kaze hikuttai.

kaze hik-ru=tai

風邪 ひく-NPST=SFP

「太郎は寝るとき毎日部屋の窓を開けているから風邪をひくんだよ。」

1 度きりまたは過去の反復の出来事による効力は過去形しか容認されないが、現在の反復の出来事による効力は非過去形も容認されると考えられる。次回の調査ではその観点も踏まえて調査文を作成する必要がある。

5.2.8. 反事実仮想

表 16. 反事実仮想の調査結果

動詞の種類	動詞	過去
主体動作客体変化動詞	開ける	T
主体変化動詞	行く	T

	死ぬ	T
主体動作動詞	歩く	T
	降る	T

反事実仮想 (counterfactual、以下のグロスでは CFCT) は、標準語と同様に過去形のみであり、トル形のみ使用される。

- (40) *hannino tukamaetorankattara imagoro takusanno hitoga*
hannin=o tukamae-tor-a-n-kattara imagoro takusanno hito=ga
 犯人=ACC 捕まえる-CFCT-THM-NEG-CND 今頃 たくさんの 人=NOM

{*siniyotta/sindotta}yarooone.

{*sin-i-yor-ta/sin-tor-ta}=yar-roo=ne

{*死ぬ-THM-PRF-PST/死ぬ-PRF-PST}=COP-INFR=SPF

「犯人を捕まえていなかったら、今頃たくさんの人が死んでいただろうね。」

6. おわりに

小郡市方言では、標準語のシテイル形にあたるものとして、ヨル形とトル形が用いられ、使い分けられていることが分かった。今回扱った直前、未遂、進行、結果、反復、痕跡、効力、反事実仮想の 8 つのアスペクト的意味のうち、未遂を除く 7 つの意味が存在していることが明らかになった。非過去形でも競合は起こっているが、過去形や未来形 (推量形) ではさらに両形式が容認されやすくなる。

進行の調査結果から、動作の終了限界がヨル形とトル形の使い分けに関わっていることが考えられる。動詞の種類で比較すると必然的終了限界がない主体動作動詞で特に 2 形式の競合が起こる。文脈で動作の終了限界を設定した場合は、非過去形では動作の終了限界がない場合特に 2 形式の競合が起こる。動作の終了限界がない、近い、遠いの順にトル形の容認度が低くなり、ヨル形が使われる。さらに、終了限界が近い例文で動作のはじめであればトル形に加えてヨル形も使用できるという結果もあった。

他のアスペクト的意味の結果もふまえると、以下の図のように表すことができる。

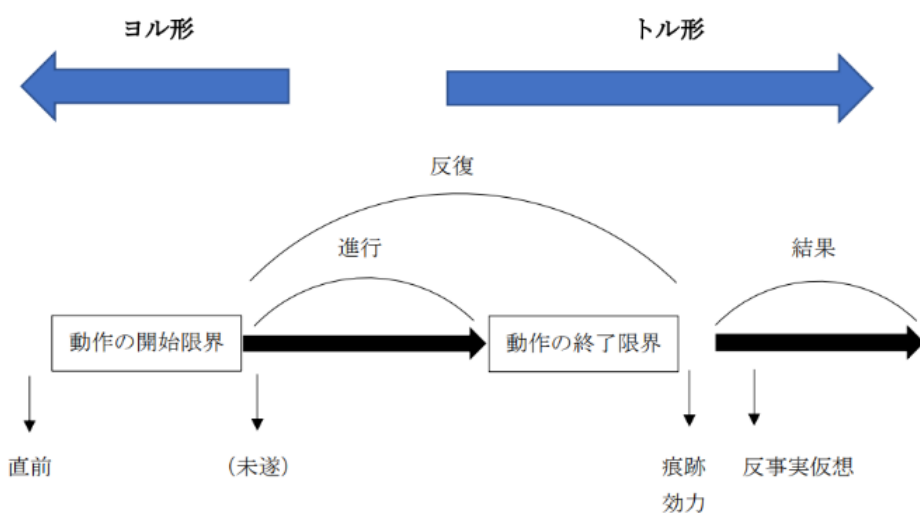


図 4. アスペクト的意味の時間関係と使い分けの傾向（工藤 2014: 374, 379 を参考に筆者作成）

このように、時間関係にそれぞれのアスペクト的意味を配置すると、左に行くほどヨル形が、右に行くほどトル形が使用されるとまとめられる。中間に位置する進行は特に競合が起こるが、その中でも開始限界と終了限界のどちらに近いかによって違いが生じる。

図のようにまとめられるが、8 つすべてをアスペクト的意味と認めてよいか考える必要がある。特に痕跡と効力を独立させて良いかである。痕跡は工藤（2014）では非過去形の例文のみが示されている。過去の事象を非過去形で表すのが痕跡の特徴であるとしたら、3.1.2 で述べた確認済みの事実である過去の事象に非過去形を使用することでモーダルな意味の前面化が起こるというテンスの機能による意味ではないかと考えられる。痕跡を過去テンスで調査すると、ヨル形の容認度が上がる結果もあり、過去の事象を過去形で表すと進行の意味に近くなっている、つまり痕跡の意味が失われていると言える。効力については、工藤（2014）では過去の事象を非過去形で表した例文と過去の事象を過去形で表した例文の両方が示されていたが、今回の結果ではほぼ過去形しか回答を得られなかった。これはテンスの、確認済みの過去の事実に対する評価感情の前面化による意味の付与であるとも考えられる。痕跡と効力はアスペクト的意味としては結果にかなり近いものであり、分ける必要があるのか検討しなければならない。

今後の課題は以下の通りである。調査文の作成では、非過去形から過去形や未来形（推量形）にするときアスペクト的意味が崩れていないかをより精査する必要がある。調査の際は、意図した状況が話者に伝わっているかを確認しながら調査を進めなければならない。扱った動詞についても数が不十分であり、今後調査が必要である。

アスペクトとテンスの関連についても、考察が不十分である。ただ文のテンスを変えた

だけでミニマルペアの調査文ができるというわけではないため、テンスが変わることで事態の捉え方がどう変わっているのかを考えなければならない。テンスの持つ機能やアスペクトとの関係について理解を深めることは、先述の痕跡や効力の問題の適切な考察につながる。

アスペクト的意味について今回は工藤（2014）を参照したが、小郡市方言の自然談話などから他の意味が存在しないか検討し、それに合わせた調査を行うことも重要であると考ええる。

参照文献

- 鴨井修平 (2020) 「西日本諸方言におけるアスペクト体系のバリエーション—YORU・TORU・TERU の記述を中心に—」 『言語記述論集』 12: 223-240.
- 木部暢子・沖裕子・井上文子 (2002) 「テンス・アスペクト」 大西拓一郎 (編) 『方言文法調査ガイドブック』 https://www2.ninjal.ac.jp/takoni/DGG/DGG_index.htm [2022年12月アクセス].
- 国立国語研究所 (2003) (編) 『全国方言談話データベース 日本のおふるさとことば集成 第15巻 広島・山口』 東京: 国書刊行会.
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』 東京: ひつじ書房.
- 工藤真由美 (1999) 「西日本諸方言におけるアスペクト対立の動態」 『阪大日本語研究』 11: 1-17.
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』 東京: ひつじ書房.
- 岡野信子 (1983) 「福岡県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『九州地方の方言』 59-86. 東京: 国書刊行会.
- 津田智史 (2012) 「西日本諸方言におけるアスペクトと形式の意味—調査法と理論的枠組みの再検討—」 『文化』 75(3-4): 322-340.

付録 1. 調査票

動詞の種類	動詞	アスペクト	テンス	例文
主体動作客 体変化動詞	開ける	直前	非過去	(太郎が窓に手をかけたところ) 太郎が窓を開けようとしている。
			過去	(太郎が窓に手をかけたのを思い出して) 太郎が窓を開けようとしていた。
			未来	(太郎が窓に手をかけているのを想像して) 家に帰った時には太郎が窓を開けようとしているだろう。
	未遂	非過去	非過去	(窓を開けようとしていた太郎に、雨が降っているのを伝えて止めた。) もう少しで太郎は窓を開けるところだった。
			過去	(窓が開きつつあるのを想像して) 家に帰った時には太郎が窓を開けているだろう。
			未来	(窓が開きつつあるのを想像して) 家に帰った時には太郎が窓を開けているだろう。
	進行	非過去	非過去	(窓が次第に動いている) 太郎が窓を開けつつある。
			過去	(窓が開きつつあったのを思い出して) 太郎が窓を開けていた。
			未来	(窓が開きつつあるのを想像して) 家に帰った時には太郎が窓を開けているだろう。
	反復	非過去	非過去	太郎は毎日 6 時に窓を開けている。
			過去	(太郎が毎日 6 時に窓を開けることを話題にして) 太郎はあの頃 6 時に窓を開けていた。
			未来	太郎は明日から毎日 6 時に窓を開ける。
	痕跡	非過去	非過去	(外にいると室内の音が聞こえて) 太郎はまた窓を開けている。
			過去	(太郎が風邪をひいていたのを思い出して) 太郎はまた夜に窓を開けていたのだ。
	効力	非過去	非過去	太郎は寝るとき部屋の窓を開けている。だから風邪をひいている。
			過去	太郎は寝るとき部屋の窓を開けていた。だから風邪をひいている。
	反事実仮想	過去	(部屋は暑かったが、雨が降っていたから窓を開けられなかった。) 雨が降っていなければ、太郎は窓を開けていただろう。	

主体変化動詞	行く	直前	非過去	(太郎がカバンを持って玄関を出ようとしている) 太郎が学校へ行こうとしている。
			過去	(太郎がカバンを持って玄関を出ようとしていたのを思い出して) 太郎は学校へ行こうとしていた。
		未遂	過去	(太郎が玄関から出ようとしているのを止めて) 太郎はもう少しで遊びに行くところだった。
		進行	非過去	(歩いているときに知り合いと会い、「どこへ行くの?」と聞かれて) 学校へ行く所だ。
			過去	(太郎が学校への道を歩いていたのを思い出して) 太郎は学校へ行きつつあった。
			未来	(太郎が学校への道を歩いているのを想像して) 9時には学校へ行きつつあるだろう。
		結果	非過去	(「太郎はどこにいるの?」と聞かれて) 太郎は学校へ行っている。
			過去	(太郎が学校にいたのを思い出して) 太郎は学校へ行っていた。
			未来	(太郎が学校にいるのを想像して) 9時には学校に行っているだろう。
		反復	非過去	太郎は毎日学校へ行っている。
			過去	(太郎が毎日学校へ通っていたことを話題にして) 毎日学校へ行っていた。
			未来	太郎は明日から毎日学校へ行く。
		痕跡	非過去	(太郎は家に帰って自室にいる。リビングに図書館の本が置いてあるのを見て) 太郎が図書館に行っている。
			過去	(太郎は家に帰って自室にいる。リビングに図書館の本が置いてあったのを思い出して) 太郎は図書館に行っていたのだ。
		効力	非過去	太郎は小学生のときインターナショナルスクールに行っている。だから英語が話せる。
			過去	太郎は小学生のときインターナショナルス

				クールに行っていた。だから英語が話せる。
		反事実仮想	過去	風邪をひかなかつたら、太郎は今日学校に行っていただろう。
死ぬ	直前	非過去		(死ぬ直前) 金魚が死にそうだ。
		過去		(金魚が苦しそうにしていたのを思い出して) あの時は金魚が死にかけていた。
		未来		(金魚の様子を見て) 明日になったら金魚は死にかけているだろう。
	未遂	過去		(犯行直前で犯人を逮捕して) もう少しで人が死ぬところだった。
	進行	非過去		(金魚がだんだん弱ってきているのを見て) 金魚が死につつある。
	結果	非過去		(金魚が浮いているのを見て) 金魚が死んでいる。
		過去		(金魚が浮いて動かなかつたのを思い出して) 金魚が死んでいた。
		未来		(金魚が浮いて動かないのを想像して) 明日になったら金魚は死んでいるだろう。
	反復	非過去		(この頃は交通事故で) 毎日 100 人ずつ人が死んでいる。
		過去		(当時の交通事故死の話しながら) あの頃は毎日人が 100 人ずつ死んでいた。
	痕跡	非過去		(事件のあった部屋で血の跡があるところを見て) ここで人が死んでいる。
		過去		(事件のあった部屋で血の跡があるところを見たのを思い出して) ここで人が死んでいた。
	効力	非過去		この部屋で人が死んでいる。だから私はここに住みたくない。
		過去		この部屋で人が死んでいた。だから私はここに住みたくない。
反事実仮想		過去		犯人を捕まえていなかったら、今頃たくさんの方が死んでいただろう。
主体動作動	歩く	直前	非過去	(子供が畑に入ろうとしているのを見て)

詞				子供が畑の中を歩こうとしている。	
		過去		(子供が畑に入ろうとしていたのを思い出して) 子供が畑の中を歩こうとしていた。	
		未来		(子供が畑の中に入ろうとしているのを想像して) 子供が畑の中を歩こうとしているだろう。	
		未遂	過去	(子供が畑に入ろうとしているのをとめて) もう少しで子供が畑の中を歩くところだった。	
		進行	非過去	(子供が畑の中を歩いている最中) 子供が畑の中を歩いている。	
			過去	(子供が歩いている最中であつたのを思い出して) 子供が畑の中を歩いていた。	
			未来	(子供が歩いている最中であるのを想像して) 子供が畑の中を歩いているだろう。	
		反復	非過去	太郎は毎日 5km 歩いている。	
			過去	太郎はあの頃毎日 5km 歩いていた。	
			未来	太郎は明日から毎日 5km 歩く。	
		痕跡	非過去	(ズボンに泥が付いている) この子はまた畑の中を歩いている。	
			過去	(ズボンに泥がついていたのを思い出して) この子はまた畑の中を歩いたのだ。	
			未来	(ズボンに泥がついているのを想像して) あの子はまた畑の中を歩いているだろう。	
		効力	非過去	太郎は昨日 10km 歩いている。だからとても筋肉痛らしい。	
			過去	太郎は昨日 10km 歩いていた。だからとても筋肉痛らしい。	
			反事実仮想	過去	迎えに行かなければ、太郎は家までの長い距離を歩いていただろう。
		動かす	進行	非過去	(外から帰ってきた母に「今何してるの?」と聞かれて) 私は今たくさん植木鉢を動かしている最中だ。
				過去	母が帰ってきたとき、私はたくさん植木

				鉢を動かしている最中だった。
		非過去		(外から帰ってきた母に「お父さん今何してるの?」と聞かれて) 父は今たくさんの植木鉢を動かしている最中だ。
		過去		母が帰ってきたとき、父はたくさんの植木鉢を動かしている最中だった。
		非過去		(外から帰ってきた母に「お父さん今何してるの?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える) 父は今たくさんの植木鉢を動かしている最中らしい。
		過去		母が帰ってきたとき、父はたくさんの植木鉢を動かしている最中だったらしい。
		非過去		(外から帰ってきた母に「今何してるの?」と聞かれて) 私は今植木鉢ひとつを(ベランダから室内に)動かしている最中だ。
		過去		母が帰ってきたとき、私は植木鉢ひとつを(ベランダから室内に)動かしている最中だった。
		非過去		(外から帰ってきた母に「お父さん今何してるの?」と聞かれて) 父は今植木鉢ひとつを(ベランダから室内に)動かしている最中だ。
		過去		母が帰ってきたとき、父は植木鉢ひとつを(ベランダから室内に)動かしている最中だった。
		非過去		(外から帰ってきた母に「お父さん今何してるの?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える) 父は今植木鉢ひとつを(ベランダから室内に)動かしている最中らしい。
		過去		母が帰ってきたとき、父は植木鉢ひとつを(ベランダから室内に)動かしている最中だったらしい。
		非過去		(電話で母に「今何してる?」と聞かれて) 私は今植木鉢ひとつを(自分の家から歩い

				て 15 分の祖母の家に) 動かしている最中だ。
			過去	母が帰ってきたとき、私は植木鉢ひとつを (自分の家から歩いて 15 分の祖母の家に) 動かしている最中だった。
			非過去	(電話で母に「今何してる?」と聞かれて) 父は今植木鉢ひとつを (自分の家から歩いて 15 分の祖母の家に) 動かしている最中だ。
			過去	母が帰ってきたとき、父は植木鉢ひとつを (自分の家から歩いて 15 分の祖母の家に) 動かしている最中だった。
			非過去	(外から帰ってきた母に「お父さん今何してるの?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える) 父は今植木鉢ひとつを (自分の家から歩いて 15 分の祖母の家に) 動かしている最中らしい。
			過去	母が帰ってきたとき、父は植木鉢ひとつを (自分の家から歩いて 15 分の祖母の家に) 動かしている最中だったらしい。
	飲む	進行	非過去	(電話で「今何してる?」と聞かれて) 私は今晚酌でビールを飲んでいる最中だ。
			過去	電話がきたとき、私は今晚酌でビールを飲んでいる最中だった。
			非過去	(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて) 父は今晚酌でビールを飲んでいる最中だ。
			過去	電話がきたとき、父は今晚酌でビールを飲んでいる最中だった。
			非過去	(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える) 父は今晚酌でビールを飲んでいる最中らしい。
			過去	電話がきたとき、父は今晚酌でビールを飲んでいる最中だったらしい。

		非過去	(電話で「今何してる?」と聞かれて) 私は今体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいる最中だ。	
		過去	電話がきたとき、私は体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいる最中だった。	
		非過去	(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて) 父は今体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいる最中だ。	
		過去	電話がきたとき、父は体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいる最中だった。	
		非過去	(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える) 父は今体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいる最中らしい。	
		過去	電話がきたとき、父は体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいる最中だったらしい。	
		非過去	(電話で「今何してる?」と聞かれて) 私は今友達と飲んでいる最中だ。	
		過去	電話がきたとき、私は友達と飲んでいる最中だった。	
		非過去	(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて) 父は今母と飲んでいる最中だ。	
		過去	電話がきたとき、父は母と飲んでいる最中だった。	
		非過去	(祖母から電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える) 父は今母と飲んでいる最中らしい。	
		過去	電話がきたとき、父は母と飲んでいる最中だったらしい。	
	見る	進行	非過去	(電話で「今何してる?」と聞かれて) 私は今映画を見ている最中だ。
			過去	電話がきたとき、私は映画を見ている最中だった。
			非過去	(電話で「お父さん今何してる?」と聞か

				れて) 父は今映画を見ている最中だ。
		過去		電話がきたとき、父は映画を見ている最中だった。
		非過去		(電話で「今何してる?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える。) 父は今映画を見ている最中らしい。
		過去		電話がきたとき、父は映画を見ている最中だったらしい。
		非過去		(電話で「今何してる?」と聞かれて) 私は今妹がジェットコースターに乗っているのを見ている最中だ。
		過去		電話がきたとき、私は妹がジェットコースターに乗っているのを見ている最中だった。
		非過去		(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて) 父は今妹がジェットコースターに乗っているのを見ている最中だ。
		過去		電話がきたとき、父は妹がジェットコースターに乗っているのを見ている最中だった。
		非過去		(電話で「今何してる?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える。) 父は今妹がジェットコースターに乗っているのを見ている最中らしい。
		過去		電話がきたとき、父は妹がジェットコースターに乗っているのを見ている最中だったらしい。
		非過去		(電話で「今何してる?」と聞かれて) 私は今ぼーっと空を見ている最中だ。
		過去		電話がきたとき、私はぼーっと空を見ている最中だった。
		非過去		(電話で「お父さん今何してる?」と聞かれて) 父は今ぼーっと空を見ている最中だ。
		過去		電話がきたとき、父はぼーっと空を見てい

				る最中だった。
			非過去	(電話で「今何してる?」と聞かれて妹から聞いたことを伝える。) 父は今ぼーっと空を見ている最中らしい。
			過去	電話がきたとき、父はぼーっと空を見ている最中だったらしい。
	降る	直前	非過去	(雨粒が2,3滴落ちてきた) 今にも雨が降ろうとしている。
			過去	(雨粒が2,3滴落ちてきていたのを思い出して) 雨が降ろうとしていた。
		未遂	過去	(雨雲が立ち込めていた) もう少しで雨が降るところだった。
		進行	非過去	(雨が降っている最中) 今日は朝から雨が降っている。
			過去	(雨がざあざあ降っていたのを思い出して) 雨が降っていた。
			未来	(雨がざあざあ降っているのを想像して) 明日の今頃は雨が降っているだろう。
		反復	非過去	このところ毎日雨が降っている。
			過去	先月は毎日雨が降っていた。
			未来	来週は毎日雨が降る。(降っているだろう)
		痕跡	非過去	(地面が濡れているのを見て) 雨が降っている。
			過去	(地面が濡れていたのを思い出して) 雨が降ったのだ。
		効力	非過去	今朝は雨が降っている。だから地面が濡れている。
			過去	今朝は雨が降っていた。だから地面が濡れている。
			反事実仮想	過去
状態動詞	怒る	進行	非過去	(先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っているのを見て) 先生は怒っている。
			過去	(先生が机をガンガン叩きながら怒鳴って

				いたのを思い出して) 先生はあの時怒っていた。
			未来	(先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っているのを想像して) 先生は怒っているだろう。
		結果	非過去	(先生の顔つきが厳しいのを見て) 先生は怒っている。
			過去	(先生の顔つきが厳しかったのを思い出して) 先生はあの時怒っていた。
			未来	(先生の顔つきが厳しいのを想像して) 先生は怒っているだろう。
		反復	非過去	あの先生はいつも怒っている。
			過去	あの先生はいつも怒っていた。
			未来	先生は毎日怒るだろう。

付録 2. 小郡市方言例文リスト

akeru 「開ける」

直前	非過去	<i>tarooga madoo akeyoru.</i> 「太郎が窓を開けている。」
	過去	<i>tarooga madoo akeyooto {siyotta/sitotta}yone.</i> 「太郎が窓を開けようとしていたよね。」
	未来	<i>tarooga madoo akeyooto{siyoru/sitoru}yarooone.</i> 「太郎が窓を開けようとしているだろうね。」
未遂	非過去	<i>moosukoside taroowa madoo akerutokoyatta.</i> 「もう少しで太郎は窓を開けるところだった。」
進行	非過去	<i>tarooga madoo {akeyoru/aketoru}.</i> 「太郎が窓を開けている。」
	過去	<i>tarooga madoo {akeyotta/aketotta}.</i> 「太郎が窓を開けていた。」
	未来	<i>tarooga madoo {akeyoru/aketoru}yarooone.</i> 「太郎が窓を開けているだろう。」

結果	非過去	<i>tarooga mado aketoru.</i> 「太郎が窓を開けている。」
	過去	<i>tarooga mado aketotta.</i> 「太郎が窓を開けていた。」
	未来	<i>tarooga mado aketoruyaroone.</i> 「太郎が窓を開けているだろうね。」
反復	非過去	<i>taroowa mainiti rokuzini mado akeyoru.</i> 「太郎は毎日 6 時に窓を開けている。」
	過去	<i>taroowa anokoro rokuzini mado akeyotta.</i> 「太郎はあの頃 6 時に窓を開けていた。」
	未来	<i>taroowa asitakara mainiti rokuzini madoo akeyooto{siyuru/sitoru}.</i> 「太郎は明日から毎日 6 時に窓を開けようとしている。」
痕跡	非過去	<i>taroo mata mado aketoru.</i> 「太郎はまた窓を開けている。」
	過去	<i>taroo mata yoruni mado aketottanyane.</i> 「太郎はまた夜に窓を開けていたんだね。」
効力	非過去	<i>taroowa nerutoki mainiti heyano mado {akeyuru/aketoru}ken kazehikuttai.</i> 「太郎は寝るとき毎日部屋の窓を開けているから風邪を引んだよ。」
	過去	<i>taroowa nerutoki mado aketottaken kazehiitoru.</i> 「太郎は寝るとき窓を開けていたから風邪を引いている。」
反事 実仮 想	過去	<i>amega huttenakattara taroowa mado aketottayaroone.</i> 「雨が降っていなかったら太郎は窓を開けていただろうね。」

iku 「行く」

直前	非過去	<i>tarooga gakkooni ikiyooyo.</i> 「太郎は学校に行っているよ。」
	過去	<i>taroowa gakkooni ikiyattayo.</i> 「太郎は学校に行っていたよ。」
未遂	過去	<i>taroowa moosukoside asobini ikutokoroyatta.</i> 「太郎はもう少しで遊びに行くところだった。」
進行	非過去	<i>gakkooni ikiyooyo.</i> 「学校に行っているよ。」
	過去	<i>taroowa gakkooni {ikiyatta/ittotta}.</i>

		「太郎は学校に行っていた。」
	未来	<i>kuziniwa gakooni ikiyoruyaroone.</i> 「9時には学校に行っているだろうね。」
結果	非過去	<i>taroowa gakooni ittoru.</i> 「太郎は学校に行っている。」
	過去	<i>taroowa gakooni {ittotta/otta}.</i> 「太郎は学校に行っていた。」
	未来	<i>kuziniwa gakooni ittoruyaroone.</i> 「9時には学校に行っているだろうね。」
反復	非過去	<i>taroowa mainiti gakooni {ikiyoru/ittoru}.</i> 「太郎は毎日学校に行っている。」
	過去	<i>taroowa mainiti gakooni {ikiyatta/ittotta}.</i> 「太郎は毎日学校に行っていた。」
	未来	<i>taroowa asitakara mainiti gakooni iku.</i> 「太郎は明日から毎日学校に行く。」
痕跡	非過去	<i>tarooga tosyokanni ittoru.</i> 「太郎が図書館に行っている。」
	過去	<i>taroowa tosyokanni ittotanyana.</i> 「太郎は図書館に行っていたんだな。」
効力	過去	<i>taroowa syoogakuseenotoki intaanasyonarusukuuruni {ikiyatta/ittotta}ken eegoga hanaseru.</i> 「太郎は小学生のときインターナショナルスクールに行っていたから英語が話せる。」
反事実仮想	過去	<i>kaze hikankattara taroowa kyoo gakooni ittotayaroone.</i> 「風邪をひかなかつたら太郎は今日学校に行っていただろうね。」

sinu 「死ぬ」

直前	非過去	<i>kingyoga sinisoottyan.</i> 「金魚が死にそうなんだよ。」
	過去	<i>anotki kingyoga sinikake{yotta/totta}.</i> 「あの時金魚が死にかけていた。」
	未来	<i>asitaninattara kingyowa sinikake{yoru/toru}yaroone.</i> 「明日になったら金魚は死にかけているだろうね。」

未遂	過去	<i>moosukoside hitoga sinutokoyatta.</i> 「もう少しで人が死ぬところだった。」
進行	非過去	<i>kingyoga siniyoru.</i> 「金魚が死んでいる。」
結果	非過去	<i>kingyoga sindoru.</i> 「金魚が死んでいる。」
	過去	<i>kingyoga sindotta.</i> 「金魚が死んでいた。」
	未来	<i>asitaniwa kingyowa sindoruyaroone.</i> 「明日には金魚が死んでいるだろうね。」
反復	非過去	<i>mainiti hyakuninzutu hitoga siniyoru.</i> 「毎日 100 人ずつ人が死んでいる。」
	過去	<i>mainiti hyakuninzutu hitoga siniyotta.</i> 「毎日 100 人ずつ人が死んでいた。」
痕跡	非過去	<i>kokode hitoga sindoru.</i> 「ここで人が死んでいる。」
	過去	<i>kokode hitoga sindotta.</i> 「ここで人が死んでいた。」
効力	過去	<i>kokode hitoga sindottaken kokoni sumitakunai.</i> 「ここで人が死んでいたからここに住みたくない。」
反事 実仮 想	過去	<i>hannino tukamaetorankattara imagoro takusanno hitoga sindottayaroone.</i> 「犯人を捕まえてなかったら今頃たくさんの人が死んでいただろうね。」

aruku 「歩く」

直前	非過去	<i>kodomoga hatakenonaka arukooto{siyoru/sitoru}.</i> 「子供が畑の中を歩こうとしている。」
	過去	<i>kodomoga hatakenonaka arukooto{siyotta/sitotta}.</i> 「子供が畑の中を歩こうとしていた。」
未遂	過去	<i>moosukoside kodomoga hatakenonaka arukutokoyatta.</i> 「もう少しで子供が畑の中を歩くところだった。」
進行	非過去	<i>kodomoga hatakenonaka {arukiyoru/aruitoru}.</i> 「子供が畑の中を歩いている。」
	過去	<i>kodomoga hatakenonaka {arukiyotta/aruitotta}.</i>

		「子供が畑の中を歩いていた。」
	未来	<i>kodomoga hatakenonaka {arukiyoru/aruitoru}yaroone.</i> 「子供が畑の中を歩いているだろうね。」
反復	非過去	<i>taroowa mainiti gokiro {arukiyoru/aruitoru}.</i> 「太郎は毎日 5 キロ歩いている。」
	過去	<i>taroowa mainiti gokiro arukiyotta.</i> 「太郎は毎日 5 キロ歩いていた。」
	未来	<i>taroowa asitakara mainiti gokiro aruku.</i> 「太郎は明日から毎日 5 キロ歩く。」
痕跡	非過去	<i>konoko mata hatakenonaka aruitoru.</i> 「この子はまた畑の中を歩いている。」
	過去	<i>konokowa mata hatakenonaka {arukiyotta/aruitotta}nyana.</i> 「この子はまた畑の中を歩いていたんだな。」
	未来	<i>anoko mata hatakenonaka {arukiyoru/aruitoru}yaroone.</i> 「あの子はまた畑の中を歩いているだろうね。」
効力	非過去	<i>taroowa kinoo zyukiro aruitoruken kinnikutuu rasii.</i> 「太郎は昨日 10 キロ歩いているから筋肉痛らしい。」
	過去	<i>taroowa kinoo zyukiro {arukiyatta/aruitotta}ken kinnikutuu rasii.</i> 「太郎は昨日 10 キロ歩いていたから筋肉痛らしい。」
反事 実仮 想	過去	<i>mukaeni ikankattara taroowa iemade aruitottayaroone.</i> 「迎えにいかなかったら太郎は家まで歩いていただろうね。」

ugokasu 「動かす」

進行	非過去	<i>ima takusanno uekibatio ugokasiyuru.</i> 「今たくさんの植木鉢を動かしている。」
	過去	<i>takusanno uekibatio {ugokasiyotta/ugokasitotta}.</i> 「たくさんの植木鉢を動かしていた。」
	非過去	<i>otoosanwa takusanno uekibatio ugokasiyuru.</i> 「お父さんはたくさんの植木鉢を動かしている。」
	過去	<i>otoosanwa takusanno uekibatio {ugokasiyotta/ugokasitotta}.</i> 「お父さんはたくさんの植木鉢を動かしていた。」
	非過去	<i>otoosan ima takusanno uekibatio ugokasiyorurasii.</i> 「お父さんは今たくさんの植木鉢を動かしているらしい。」

	過去	<i>otoosan takusanno uekibatio {ugokasiyotta/ugokasitotta}rasii.</i> 「お父さんはたくさんの植木鉢を動かしていたらしい。」
	非過去	<i>uekibati {ugokasiyoru/ugokasitoru}yan.</i> 「植木鉢を動かしているでしょ。」
	過去	<i>uekibati {ugokasiyotta/ugokasitotta}.</i> 「植木鉢を動かしていた。」
	非過去	<i>otoosan ima uekibati ugokasiyoru.</i> 「お父さんは今植木鉢を動かしている。」
	過去	<i>otoosan uekibati {ugokasiyotta/ugokasitotta}.</i> 「お父さんは植木鉢を動かしていた。」
	非過去	<i>otoosan ima uekibati ugokasiyorurasii.</i> 「お父さんは今植木鉢を動かしているらしい。」
	過去	<i>otoosan uekibati {ugokasiyotta/ugokasitotta}rasii.</i> 「お父さんは植木鉢を動かしていたらしい。」
	非過去	<i>ima baachantimade uekibati ugokasiyoru.</i> 「今おばあちゃんの家まで植木鉢を動かしている。」
	過去	<i>baachantimade uekibati {ugokasiyotta/ugokasitotta}.</i> 「おばあちゃんの家まで植木鉢を動かしていた。」
	非過去	<i>otoosan ima baachantimade uekibati ugokasiyoru.</i> 「お父さんは今おばあちゃんの家まで植木鉢を動かしている。」
	過去	<i>otoosan baachantimade uekibati {ugokasiyotta/ugokasitotta}.</i> 「お父さんはおばあちゃんの家まで植木鉢を動かしていた。」
	非過去	<i>otoosan ima baachantimade uekibati ugokasiyorurasii.</i> 「お父さんは今おばあちゃんの家まで植木鉢を動かしているらしい。」
	過去	<i>otoosan baachantimade uekibati {ugokasiyotta/ugokasitotta}rasii.</i> 「お父さんはおばあちゃんの家まで植木鉢を動かしていたらしい。」

nomu 「飲む」

進行	非過去	<i>ima bansyakude biiru nomiyoru.</i> 「今晚酌でビールを飲んでいる。」
	過去	<i>bansyakude biiru {nomiyotta/nondotta}.</i> 「晩酌でビールを飲んでいた。」
	非過去	<i>otoosan ima bansyakude biiru nomiyoru.</i> 「お父さんは今晚酌でビールを飲んでいる。」

過去	<i>otoosan bansyakude biiru {nomiyotta/nondotta}.</i> 「お父さんは晩酌でビールを飲んでいました。」
非過去	<i>otoosan ima bansyakude biiru {nomiyoru/nondoru}rasii.</i> 「お父さんは今晚酌でビールを飲んでいるらしい。」
過去	<i>otoosan bansyakude biiru {nomiyotta/nondotta}rasii.</i> 「お父さんは晩酌でビールを飲んでいたらしい。」
非過去	<i>ima taityoo waruiken eeyoodorinku {nomiyoru/nondoru}.</i> 「今体調が悪いので栄養ドリンクを飲んでいる。」
過去	<i>taityoo warukattaken eeyoodorinku {nomiyotta/nondotta}.</i> 「体調が悪かったので栄養ドリンクを飲んでいました。」
非過去	<i>otoosan ima taityoo warukute eeyoodorinku nomiyoru.</i> 「お父さんは今体調が悪いので栄養ドリンクを飲んでいる。」
過去	<i>otoosan taityoo warukute eeyoodorinku {nomiyotta/nondotta}.</i> 「お父さんは体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいました。」
非過去	<i>otoosan ima taityoo warukute eeyoodorinku {nomiyoru/nondoru}rasii.</i> 「お父さんは今体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいるらしい。」
過去	<i>otoosan taityoo warukute eeyoodorinku {nomiyotta/nondotta}rasii.</i> 「お父さんは体調が悪くて栄養ドリンクを飲んでいたらしい。」
非過去	<i>ima tomodatito {nomiyoru/nondoru}.</i> 「今友達と飲んでいる。」
過去	<i>tomodatito {nomiyotta/nondotta}.</i> 「友達と飲んでいました。」
非過去	<i>otoosan ima okaasanto {nomiyoru/nondoru}.</i> 「お父さんは今お母さんと飲んでいる。」
過去	<i>otoosan okaasanto {nomiyotta/nondotta}.</i> 「お父さんはお母さんと飲んでいました。」
非過去	<i>otoosan ima okaasanto {nomiyoru/nondoru}rasii.</i> 「お父さんは今お母さんと飲んでいるらしい。」
過去	<i>otoosan okaasanto {nomiyotta/nondotta}rasii.</i> 「お父さんはお母さんと飲んでいたらしい。」

miru 「見る」

進行	非過去	<i>ima eega miyuru.</i> 「今映画を見ている。」
----	-----	--

過去	<i>eega {miyotta/mitotta}.</i> 「映画を見ていた。」
非過去	<i>otoosan ima eega miyuru.</i> 「お父さんは今映画を見ている。」
過去	<i>otoosan eega {miyotta/mitotta}.</i> 「お父さんは映画を見ていた。」
非過去	<i>otoosan ima eega {miyuru/mitoru}rasii.</i> 「お父さんは今映画を見ているらしい。」
過去	<i>otoosan eega {miyotta/mitotta}rasii.</i> 「お父さんは映画を見ていたらしい。」
非過去	<i>ima ○○ga jettokoosutaani nottorunoo {miyuru/mitoru}.</i> 「今○○（人名）がジェットコースターに乗っているのを見ている。」
過去	<i>○○ga jiettokoosutaani nottorunoo {miyotta/mitotta}.</i> 「○○（人名）がジェットコースターに乗っているのを見ていた。」
非過去	<i>otoosan ima ○○ga jiettokoosutaani nottorunoo miyuru.</i> 「お父さんは今○○（人名）がジェットコースターに乗っているのを見ている。」
過去	<i>otoosan ○○ga jiettokoosutaani nottorunoo {miyotta/mitotta}.</i> 「お父さんは○○（人名）がジェットコースターに乗っているのを見ていた。」
非過去	<i>ima otoosan ○○ga jiettokoosutaani nottorunoo {miyuru/mitoru}dakedatte.</i> 「今お父さんは○○（人名）がジェットコースターに乗っているのを見ているだけだって。」
過去	<i>otoosan ○○ga jiettokoosutaani nottorunoo miyottarasii.</i> 「お父さんは○○（人名）がジェットコースターに乗っているのを見ていたらしい。」
非過去	<i>ima bootto sora {miyuru/mitoru}.</i> 「今ぼーっと空を見ている。」
過去	<i>bootto sora {miyotta/mitotta}.</i> 「ぼーっと空を見ていた。」
非過去	<i>otoosan ima bootto sora {miyuru/mitoru}.</i> 「お父さんは今ぼーっと空を見ている。」
過去	<i>otoosan bootto sora {miyotta/mitotta}.</i> 「お父さんはぼーっと空を見ていた。」

	非過去	<i>otoosan ima bootto sora {miyoru/mitoru}rasii.</i> 「お父さんは今ぼーっと空を見ているらしい。」
	過去	<i>otoosan bootto sora {miyotta/mitotta}rasii.</i> 「お父さんはぼーっと空を見ていたらしい。」

huru 「降る」

直前	非過去	<i>imanimo ame hurisouyanai?</i> 「今にも雨が降りそうじゃない？」
	過去	<i>amega {hurootosiyotta/hurootositotta/hurisooyatta}.</i> 「雨が降ろうとしていた。」
未遂	過去	<i>moosukoside amega hurutokoyatta.</i> 「もう少しで雨が降るところだった。」
進行	非過去	<i>kyoowa asakara ame {huriyoru/hutturou}.</i> 「今日は朝から雨が降っている。」
	過去	<i>ame {huriyotta/huttotta}.</i> 「雨が降っていた。」
	未来	<i>asitano imagoro ame {huriyoruyaroone/hutturuyaroone/huriyoroone}.</i> 「明日の今ごろ雨が降っているだろうね。」
反復	非過去	<i>konotokoro mainiti ame {huriyoru/hutturou}.</i> 「このところ毎日雨が降っている。」
	過去	<i>sengetuwa mainiti ame {huriyotta/huttotta}.</i> 「先月は毎日雨が降っていた。」
	未来	<i>raisyyuwa mainiti ame huruyaroone.</i> 「来週は毎日雨が降るだろうね。」
痕跡	非過去	<i>ame {huriyoru/hutturou}.</i> 「雨が降っている。」
	過去	<i>ame {huriyotta/huttotta}nya.</i> 「雨が降っていたんだな。」
効力	非過去	<i>kesa ame hutturuken zimenga nuretoru.</i> 「今朝雨が降っているから地面が濡れている。」
	過去	<i>kesa ame {huriyotta/huttotta}ken zimenga nuretoru.</i> 「今朝雨が降っていたから地面が濡れている。」
反事 実仮	過去	<i>tenkiyohooga atattottara kinoowa ame huttottayaroune.</i> 「天気予報が当たっていたら昨日は雨が降っていただろうね。」

想		
---	--	--

okoru 「怒る」

進行	非過去	<i>sensee {okoriyoru/okottoru}.</i> 「先生が怒っている。」
	過去	<i>sensee {okoriyotta/okottotta}.</i> 「先生が怒っていた。」
	未来	<i>sensee {okoriyoru/okottoru}yarooone.</i> 「先生は怒っているだろうね。」
結果	非過去	<i>sensee okottoru.</i> 「先生が怒っている。」
	過去	<i>sensee anotoki okottotta.</i> 「先生はあの時怒っていた。」
	未来	<i>sensee okottoruyarooone.</i> 「先生は怒っているだろうね。」
反復	非過去	<i>ano sensee itumo {okoriyoru/okottoru}.</i> 「あの先生はいつも怒っている。」
	過去	<i>ano sensee itumo {okoriyotta/okottotta}.</i> 「あの先生はいつも怒っていた。」
	未来	<i>sensee mainiti okoruyarooona.</i> 「先生は毎日怒るだろうな。」

グロス一覧

ACC	対格
ASR	断定
CFCT	反事実仮想
CMPL	補文標識
CND	条件、仮定
CNS	結果相
CSL	順接（確定条件）
DAT	与格
GEN	属格
HBT	反復、習慣相
HS	伝聞
ICP	直前、起動相
INFR	推量、痕跡
INT	意志
LOC	場所格
NEG	否定
NLZ	名詞化
NOM	主格
NPST	非過去
PRF	完了相、効力
PROG	継続相
PST	過去
QUOT	引用
SFP	終助詞
THM	語幹母音
TOP	主題

謝辞

調査に協力していただいた話者の方、卒業論文執筆や調査の内容についてご指導くださった下地理則先生に心からお礼申し上げます。言語学研究室の上山あゆみ先生、太田真理先生、久保智之先生には2年次からの講義や演習で言語学の知識をご教授いただき、卒業論文に関してもアドバイスをいただきました。研究室の先輩方にも何度も相談にのっていただき、先行研究を探る段階から論文の添削まで大変お世話になりました。みなさまに深く感謝申し上げます。